

## 日本合板商業組合 2020年2月②

日本の合板・木材・製材・集成材については、今後さらに国内外問わずに消費拡大を促進していかなければならない重要なファクターとなります。

CLT・JAS構造材利用拡大事業など、昨年も注目されていた支援事業は継続されていくことが予定されています。昨年は申請の数が多く、スピードも早かった為、周知の前にほとんどの予算が使い切られた状況となってしまいました。今年も同様に注目度の高い事業となりますので、組合員の皆様も十分に状況を把握しておきましょう。

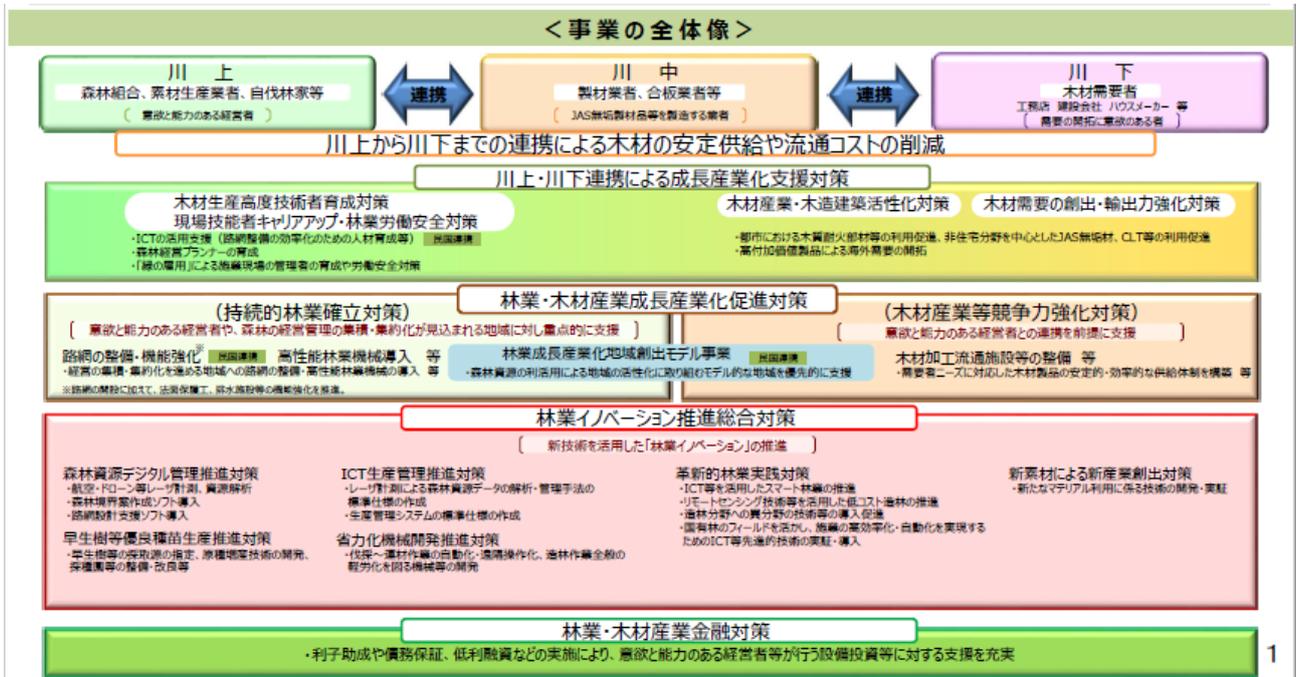
### 合板・製材・集成材国際競争力強化・輸出促進対策＜一部公共＞

加工施設の大規模化・高効率化、他品目への転換を支援。原木の安定供給・生産コストの低減を図る為、路網整備・高性能林業機械の導入等を支援、また木材製品の消費拡大や林産物の輸出促進、新技術の実証などを支援します。

事業内容	予算
<b>1. 合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策</b> ①木材産業の体質強化対策 合板・製材・集成材工場等の大規模化・高効率化や、低コスト化の木材加工流通施設の整備「再編計画」に基づく工場間連携や他品目への転換等を支援 ②原木の低コスト供給対策 路網整備、高性能林業機械の導入・間伐材生産等を支援	171億5500万円
<b>2. 森林整備事業＜公共＞</b> ◇幹線となる林道の整備と搬出間伐等を実施、原木を低コスト・安定的に供給	158億円
<b>3. 木材製品の消費拡大対策等</b> ◇非住宅分野等、木造化・木質化等を推進。また輸出に向けた木材製品、きこの等の生産施設設備等を支援。林業経営体の経営力の向上・労働安全衛生対策の強化、林業分野における新技術実証のための取組を支援	30億500万円

### 林業成長産業化総合対策

森林管理システムの下で意欲と能力のある林業経営者の育成・経営の集積・集約化を進める地域への路網の整備・高性能林業機械の導入、スマート林業・林業イノベーション、3K林業からの解放、木材の利用拡大等総合的に支援し意識改革することが対策とポイントです。



## 木材産業・木造建築活性化対策

木質耐火部材等の利用拡大、中高層建築物を中心とした CLT 等の新たな木質建築部材の利用促進、低層建築物を中心とした JAS 構造材の利用拡大等、また需給情報の共有やマッチングの取組を推進、効率的なサプライチェーンを構築することが対策とポイント

事業内容	予算
<b>1. 都市の木造化、木質耐火部材等の利用促進事業</b> ◇都市における木質耐火部材を用いた建築物の設計・実証、利用促進向け木質耐火部材等に係る製品・技術開発等を支援 <b>※都市の木造化に向けた取組</b>	3億円
<b>2. 中高層建築物を中心としたCLT等の木質建築部材の利用促進事業</b> ◇CLTを用いた先駆的な建築物の設計・実証、中高層建築物等におけるCLT等の利用拡大、設計者・施工者等の育成を支援 ◇部材の標準化等に必要データ収集や、他構造建築物への木構造導入等による低コスト化等に関する技術検討等を支援	6億6100万円
<b>3. 低層建築物を中心としたJAS構造材等利用拡大事業</b> ◇低層建築物におけるJAS構造材の利用拡大、横架材・2×4部材の定着に向けた取組等を支援 ◇大怪化した原木を活かした利用の拡大に向けた取組を支援、川上から川下までの事業者が連携した顔の見える木材を使用した構造材、内装材、家具、建具等の普及啓発等の取組を支援	1億4800万円
<b>4. 生産流通構造改革促進事業</b> ◇SCM推進フォーラム(協議会)の設置・運営による川上から川下までのマッチングの取組等の支援を全国展開。あわせて、中高層建築物における木材利用の環境を整備し、また木材加工設備等導入の利子助成・リース、森林認証材の普及啓発等の取組を支援	2億100万円